

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600168		
法人名	医療法人 竜門堂		
事業所名	竜門堂グループホームあったか荘		
所在地	佐賀県武雄市山内町三間坂甲13842-12		
自己評価作成日	令和 6 年 11 月 11 日	評価結果市町村受理日	令和7年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和7年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が一人ひとりの持たれている能力や残存機能を活かし、少しでも認知症の進行を予防しながら穏やかな生活が送れるように全職員が認知症介護の理解を深め支援致します。また御家族様が安心して預けるよう医療との連携を図りながら健康管理に努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは郊外の静かな住宅街の一角に位置し、2ユニットを配した平屋建である。周囲の見晴らしも良く、春には桜が咲き、南向きの大きな窓からは四季の風情も楽しめる。また鉄道が目の前に走り、入居者は観光列車に旗を振り、運転手もゆっくり走行するなど、入居者職員の楽しみとなっている。屋内は、自然光を取り入れ明るく広々とし清掃が行き届き、最新の空調を設置して、ホールには床暖房を設えている。平成14年に開設し、地域住民から頼られる存在でもある。母体は医療機関で、往診や訪問看護を取入れ、職員は「一緒に、楽しく、のんびり」との理念に基づいた支援に努め、終末期まで安心して過ごせるホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		
		東ユニット	西ユニット				東ユニット	西ユニット	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、介護の原則、ABC運動、接遇目標を毎朝、申し送り時にスタッフ全員で唱和している。掲げている理念をしっかり受け止め、入居者様がゆっくり穏やかな生活が送れるように実践に繋げている。	ホームの理念と介護目標を掲げ、毎朝唱和を行っている。理念について、月々のミーティングで検討し、内容理解を深め、個々の入居者に寄り添った介護の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の除草作業やゴミ収集所の掃除に参加している。 また避難訓練や運営推進委員会に参加して頂いている。	地域の自治会に所属し、除草作業やゴミ収集所の清掃に参加している。挨拶など心掛け、地域の人との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流が軽減しているなか、居宅介護支援事業所の紹介により、家族が施設見学された際に認知症の方の生活や支援方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政・民生委員・御家族に参加して頂いている。 会議録を御家族・民生委員・行政・区役様に送っている。	2ヶ月ごとに、福祉課の職員、自治会長、民生委員、家族も参加し、開催している。会議録を関係者に送付し、意向を基にサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課の保護担当者へ連絡・相や直接窓口での相談など行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の参加もあり、日頃より連携は取れている。業務の相談も行い、行政より入居状況の問い合わせも見られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の対応を担当者会議、朝礼、ミーティングなどで話し合い、またその都度発生した問題に対し検討し身体拘束しないケアに努め、定期的に勉強会を開催している。	現在、身体拘束の対象となる方はいない。外部の研修に参加し、法人やホーム内で定期的に委員会を開催、全職員で内容の理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待勉強会を定期的に話し合いを行っている。 入居前の自宅での状況を居宅ケアマネから聞いたりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会は出来ていないが、今後、研修へ参加し勉強会を行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては入居時に家族様に説明を行い、不安や疑問点などお尋ねして理解・納得頂き、署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ミーティング等を通じてスタッフに伝え、事務長や施設統括に報告している。面会の際や運営推進会議にてご家族様から意見・要望をお尋ねし日々の支援に活かしている。	入居者の半数の家族は、毎月面会しており、職員は、本人家族の意見の聞き取りに努めている。内容は上司に報告相談し、運営に改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案しやすい雰囲気づくりに努め、事務長や施設統括責任者へ相談があった事を伝え、出来る限り反映させている。	管理者は、職員が自由に意見を出せる雰囲気作りに努め、意見の聞き取りに努めている。内容を上司に報告、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者に勤務状況や個々の実績を報告し現場の状況を相談して把握されている 個々の要望を聞き入れながら働ける環境・条件に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は資格取得や研修参加の補助金支援を行っている。 なるべく研修参加の機会を増やしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホームの研修会参加は出来なかったが、今後、参加機会があれば他の施設との交流や活動を通じて、サービスの質の向上に努めたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様、出来る限りご本人に要望をお聞きするようにしていますが御家族からお聞きする事が増えています。 要望を受け入れながら、安心した生活が送られるような関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の困っている事や不安に思われている事・要望などお聞きしながら関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に主治医や担当ケアマネジャー・管理者がご本人・ご家族に状況などお聞きして入居が望ましいか他のサービスが望ましいか見極めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は介護状態が増えているが、人生の先輩であり敬い、食事などを共にし一緒に生活している気持ちで接している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	荘生活が不安に思われている部分もあり、心身の状態は面会時やお支払い時など報告し緊急時も連携を図っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時、元気な姿を見られてご家族様は安心している。 本人様は理解されていない方が増えている。	老人会の訪問を受け入れている。また、病院受診時など、家族の協力により、馴染みの場所へ行く入居者もある。地元の入居者も多く、知人との会話を支援し、関係継続に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係を把握して食卓の席を決め、孤立されないように配慮している。 レクリエーションや荘内の行事にも他の入所様と一緒に参加されている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入退居されても、法人の病院に面会に行ったり、家族とお会いした時には、会話して現在の状況を尋ねている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の把握に努力している。 雑談等を通して本人様の思いを汲み取り、ケアプランに活かしたり希望に添うように努めている。	日々の介護の中で、本人の意向の把握に努めている。意向の把握が難しい入居者は、家族より聞き取り、入居者個々の特性に合わせた対応を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人や家族、ケアマネジャーに生活歴や暮らし方、サービスの利用などをお聞きして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態を把握して、個人の力量にあった一日の生活を過ごして頂くように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はご本人、家族に意向をお尋ねし、主治医意見を組み入れ、担当者会議を開催し職員の意見を反映させた介護計画を作成している。本人・家族に説明して署名頂いている。電話や郵送などでも行っている。	介護計画書は、関係者個々の意見を集約し、適宜作成されている。しかし、家族等の説明と話し合いが十分とはいえない。	家族の面会時など、日時や時間を考慮し、家族等への理解が十分となるように、取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の健康チェックや日々の生活状況を介護計画にそって記録行い、個人の情報は申し送りノートに記載し職員間で共有し状態の変化や気づきを伝達して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時、マスク着用では家族を理解されない時があるため、付添って、心身の状況や変化などを話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ケアマネジャーから地域の事を教えてもらったり、認知症介護で悩まれている家族に地域資源の活用を伝えるなどの支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	竜門堂医院から定期的に訪問診療を受けられている。 体調異常時には上申して往診受けられ適切な医療を受けられている。必要に応じて直接医師から家族に状態の説明を行っている。	入居時、家族の支援により、これまでの主治医も選択出来る。また、同法人内で定時の往診が利用可能なことを伝えている。他科受診時は、関係者と連携を取り、適切な受診が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の情報や気づきを看護職員に伝え相談して処置など行っている。 また訪問看護時に色々相談し、状態により主治医に上申して適切な医療を受けられている。 法人内の医療連携は24時間の体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調異常時は法人の病院に入院出来る様になっている。 退院時、院長や師長から状態の報告を受けている。 最近では他の医療機関からの入居はないが、入居時ソーシャルワーカーからの情報提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については入居時に説明して署名頂いている。 状態悪化された時は主治医からご家族に説明され希望を受け入れながら支援している。	入居時、書面により方針を説明している。看取りの経験もあり、入居者の体調変化の時、主治医より家族に説明して意向を尊重し、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え、応急手当や初期対応ができるように勉強会や訓練など行っているが、定期的にミーティングなどで行う必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練やBCPなど年2回行っている。火災や災害時の訓練を行い、全スタッフが身につけている。 訓練には地域・消防署の訓練参加はしていないが協力体制は築けている。	年2回の火災や災害時の避難訓練を行っている。職員への周知や地域住民との交流はあるが、訓練時には、消防署や地元消防団や住民の参加は出来ていない。	避難訓練時、消防署の立ち合いと、地元消防団や地域住民の参加や連携が望まれる。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格に尊重した対応に心掛けている。 排泄など特にプライバシーを損ねない対応は十分注意するよにしているが時々出来ていない時も見受けられる。	職員の入職時は、個別に接遇研修を行い、言葉遣いには特に注意している。個人情報、人目につかない事務所内に保管し、排泄時など、入居者の尊厳保持に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望は受け入れている。自己決定できるように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度、施設側の決まりや都合はあるが一人ひとりの体調やペースを大切に過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、自分のお気に入りの洋服を選ばれ着衣される。 入居様や出来られない入居様はスタッフが準備を行い身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の楽しみは食事時間で、形態がミキサー食や小刻み食、ソフト食で目での楽しみが軽減している為、メニューを伝え、お盆拭きや茶碗、コップ拭きなど出来ることをして頂き、支援している。	食事はチルド食を外部に委託している。誕生日や行事時は、希望を募り、特別食を提供し、喜ばれている。元気な入居者には、出来る手伝いをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チルド食で業者に依頼しているが、入居者様に合わせた形態、食事量を提供している。水分摂取もトロミを付けたりしている。体調を崩されている時は栄養補助食品など一人ひとりに合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は理解し一人ひとりの口腔状態を把握して口腔用具を使用し口腔ケアをしている。 拒否時は状況に応じて対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの人格に尊重した対応に心掛けている。 日中は出来るだけトイレでの排泄介助を行っているが下肢筋力低下の入居者様は夜間はポータブルトイレやオムツ着用している。	車いす使用の高齢者も多いが、排泄チェック表をもとに、必要時には、2人介助も取り入れている。入居者の尊厳に気を付け、小声で声掛けを行い、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望により入浴されるのが望ましいが入浴日は決めている。一人一人に合わせた入浴方法や皮膚疾患の状態に入浴されている。	機械浴が整備されており、介護度の高い入居者や職員への負担も少ない。週2回午前中に実施し、入居者の希望により、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの心身の状況に応じて休息されている。 夜間不眠の入居者様には主治医に相談して眠剤を使用されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用されている薬や副作用は説明書により理解するようしている。服薬介助には十分注意して与薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味などお聞きして出来る事や皆様と一緒に体操やレクリエーションへ参加して楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍が長引いたり、ADL低下にて外出が出来ず外出したいとの思いがなくなっている。 入居者様もあります。 陽気のいい時は荘外散歩やベランダに出て気分転換を図っている。今後、外出の機会が増えるよう支援したい。	平均年齢が90歳を超え、介護度の高い入居者も多く、日常的な外出支援が難しくなっている。天気の良い日は、個別に戸外の散歩や、ベランダでの日光浴を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の所持金を持たれている入居者様はなくご家族からお預かり金として施設管理を行っている。 希望のお菓子や日用品、衣類など購入して年間の会計報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在ご家族様に電話や手紙の希望される入居者様は無く年賀状など届いた時は読んで手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デイルームは天井が高く明るい空間であり対面式の台所で調理している音や臭いを感じて頂いている。 広い窓からベランダ越しに季節の風景や色んな列車が走っているのを眺められています。	リビングは床暖房を施し、高い天井の自然採光で、明るく広々としている。南向きの広い窓からは、風景が一望でき、季節が感じられる。職員は穏やかな対応を心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士の居場所になっている。 食事中は介助を要する入居者様が増えているため場所を変えたりその時の状況に応じた居場所に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は空いた居室に入居されている。 使い慣れた物の持ち込みは少ないが家族の写真やプレゼントのお花など飾られている。	収納タンスやベッドは作り付けで、寝具は持ち込み、畳使用の居室もある。身体状況に合わせ、家具を配置し、壁には家族や記念の写真が貼られ、清掃も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー化して、廊下、トイレ、浴室に手すりを設置し安全で出来るだけ自立した生活が送れるようにしている。 居室の入口には名前を掲示し、トイレも解る様に表示している。		